

## 令和元年度病害虫発生予察 注意報 第4号

令和2年2月1日  
大分県農林水産研究指導センター  
農業研究部

対象作物：イチゴ  
対象病害虫：灰色かび病

- 1 対象地域 県内全域
- 2 発生面積 多い
- 3 発生量 やや多い
- 4 発表の根拠

(1) 1月中旬の巡回調査では、発生圃場率、発病果率ともに平年より高かった(図1)。

発生圃場率：20.0% (平年：8.3%、前年：20.0%)

発病果率：0.4% (平年：0.1%、前年：0.3%)

(2) 福岡管区气象台1月23日付け発表の1か月予報では、平均気温は高い確率70%、降水量は多い確率50%と予想されている。

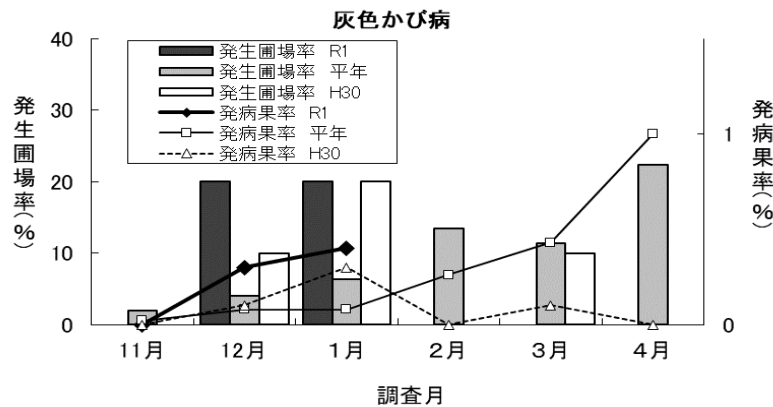


図1 県内イチゴにおける灰色かび病の発生状況

### 5 防除上注意すべき事項

- (1) ハウス内の菌密度が高いほど発病しやすくなるので、発病果や発病葉は見つけ次第ハウス外に持ち出し焼却、土中に埋める等の処分を行って胞子の飛散を抑える。
- (2) 多湿条件で発病が助長されるので換気等を行いハウス内の過湿防止に努める。
- (3) 曇雨天時は水和剤等の使用を控え、くん煙剤等を使用する。
- (4) 同一系統薬剤を連続使用すると、薬剤耐性菌を生じやすいので、他系統薬剤とのローテーション(輪番)使用を行う。
- (5) 薬剤感受性検定の結果、アゾキシストロビン剤は耐性菌率が高いので使用を控える。
- (6) 防除薬剤は、大分県農林水産研究指導センター病害虫対策チームホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」(<http://www.jppn.ne.jp/oita/>)の「いちご」「野菜類」の項を参照する。  
なお、薬剤によっては指針の更新日以降に登録内容が変更されている場合があるため、容器のラベルに従って使用する。



(ホームページアドレス <http://www.jppn.ne.jp/oita/>)